

ブドウ「クイーンニーナ」のショットベリー抑制と日焼け・縮果症の軽減技術

ブドウ「クイーンニーナ」は7月下旬～8月上旬の気温が高い埼玉県でも赤く着色する温暖化に適した品種である。一方、ショットベリーの発生が多く、摘粒に多くの労力を要し、粒が密着した房が作りにくい。また、7月上中旬の高温により、縮果症や日焼けが多発する欠点がある。研究の結果、ジベレリン処理を満開後4日以降に遅らせることでショットベリーの発生が抑えられること、カサ掛けすることで日焼け・縮果症を軽減できることがわかった。



写真1 「クイーンニーナ」の果房（左）とショットベリー（右）

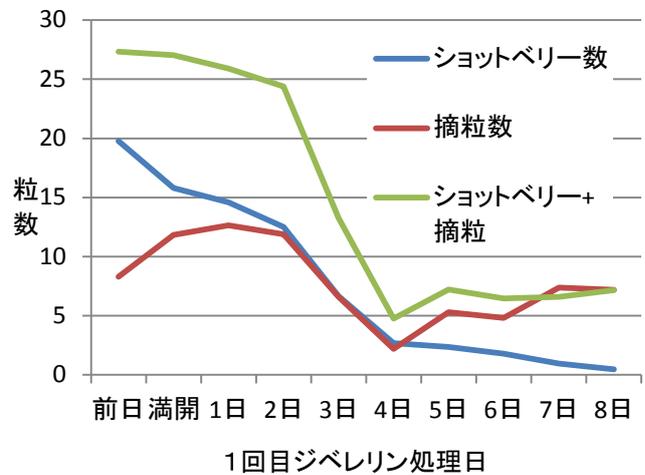


図1 ジベレリン処理日とショットベリー数及び摘粒数(2014)

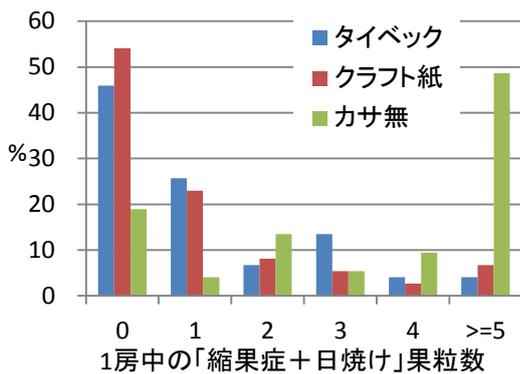
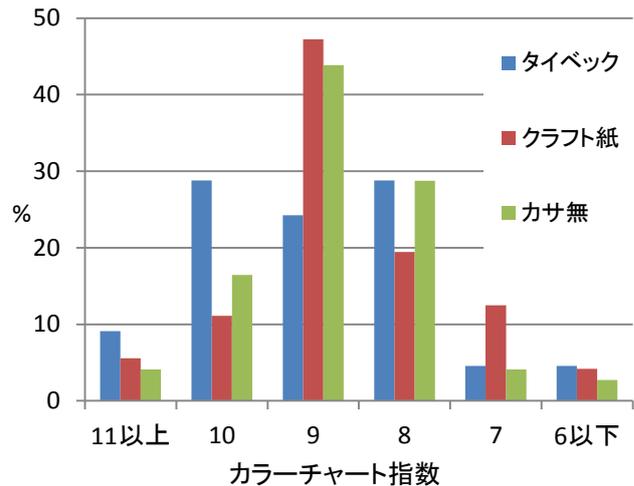


図2 カサ掛けによる「縮果症+日焼け」の抑制効果(2014)



指数：11 以上深紅、10 濃い赤紅、9 赤紅、8 赤、7 薄赤、6 以下淡紅

図3 カサ掛けが着色に及ぼす影響(2014)